

医療問題に関する

特別委員会報告

委員長 岡村 新吉

著しく遅れている山武郡の医療体制の建て直しと県立病院の再編が絡んで、立案された山武地域医療センター事業計画は、昨年4月に認可された。その後内容が修正されたが、域内での意志の統一が図れず策定委員会は開かれていない。

また、昨年3月末に国保成東病院の内科医師9名の退職によって、内科の救急や入院の受け入れがストップする異常事態が発生した。本委員会は、本市の医療のあり方について調査を行い、住民が安心して暮らせる医療体制の検討を目的として、12月議会に於いて、全会一致で設立された。(委員12名。任期は本年4月末日まで)

第1回 1月15日

会議の進め方や内容についての協議を行い、設置期間が短いので、次の案件を主眼として問題点を探る。

①地域医療の実態把握

②医療センター建設に関する経緯と問題点

第2回 1月29日

国保成東病院の坂本院長と伊藤事務長より、これまでの経緯・現況および見通しについての説明を受けた。

☆院長報告

平成17年度当初は内科医師11名であったが、10月に千葉大学に2名引き上げられると同時に、東金病院の内科の医師も6名から4名に減った影響で、同病院からの紹介状の患者が急増した。このため、夜間救急と外来患者の増加で、内科医師の過重労働が続き、これが一斉退職の原因となった。しかも期末で後任の医師の確保ができない時期であったため、このような結果になってしまい誠に申し訳ない。

現在内科医師4名であるが、19年度6名、21年度までには11名体制を目指していく。また、本年4月からは日本で初めての肝臓ガンの治療方法に取り組み予定している。このような新しい治療を積極的に実施するこ

とによって、若い医師にとっても魅力のある病院を目指し、医師の確保に努めていく。

☆事務長報告

18年4月に22名の常勤医師(内科0、前年比14名減)でスタートしたが、現在は25名体制で、患者数は外来・入院とも前年対比で約40%減となっているが、後半は内科医師の確保により徐々に回復している。

経営状況は大幅な赤字になっているが、内部留保が約9億円あったので、これを取り崩している。

19年度の見込みは、医師26名体制で経費の節減と収益の回復に努め、経営の建て直しを図っていく。

第3回 2月2日

1月29日の夕方、山武郡市の首長と郡内3県議会議員の会合が開かれ、1月下旬に千葉県健康福祉部長等より北部の各首長に示された医療センター計画案に、

山武市長が同意したとの新聞報道について、市長より事情説明を受けた。

第4回 2月14日

山武郡市広域行政組合の首長会が県議会議員および千葉県健康福祉部の部長等も出席して13日に開催され、医療センター計画についての話し合いが行われた。その内容の説明を市長より聞いた。

①長生郡市等の参画を求め、名称を「(仮称)九十九里地域医療センター」に変更する。

②病院建設や運営コストについて、県は現在の市町の財政負担が増えないよう財政支援の検討をする。

③支援病院となる国保成東病院一般病床は150床。

④医療センターができるまでの地域医療の確保について、県に要望する。

以上が県を交えた会議の主な合意点であるが、未だ不確定要素も多く、その実現までには紆余曲折・前途多難が予想される。

地域住民にとって、安全安心の要である医療体制の整備は、最重要案件である。当委員会は、引き続き情報収集にあたっていく。

議会だより 編集委員会

委員長	鈴木 一
副委員長	行木 静
委員	小川 善郎
委員	小川 君江
委員	加藤 忠勝
委員	秋庭 久夫
委員	井野 敬一
委員	山崎喜世子

議会を傍聴しましょう

簡単な手続きで傍聴できます。

詳しくは議会事務局まで

☎0475(80)1231